



安心とつるおのの下町川の手をめぐりて

防災 まちづくり 瓦版

発行／一寺言問を防災のまちにする会

平成11年4月10日

いちでらことい
一寺言問／防災まちづくり瓦版
編集／一寺言問を防災のまちにする会・編集局
発行／一寺言問を防災のまちにする会
代表 則武 勝商
連絡先／墨田区まちづくり事業推進部まちづくり推進課内
〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel (5608) 6261

一言地域に 路地尊通り誕生

力を合わせて道普請

「路地尊2号基」と「三とも通り」は、一言地区のまちづくりの成果です。

この「2号基」と「三とも通り」を結ぶ私道は、五十年ほど前にできたもので、「向島の玄界灘」といわれるくらいに傷みも激しくなっていました。そこで、沿道の皆さんが話し合い、墨田区の「私道整備補助（区で費用の九五％を負担）」を受けて整備することにしました。工事は、昨年の十二月に着工し、路面舗装の他にも、上下水道やガスの配管などの整備も含め、三月末にきれいに生まれ変わりました。

この道は、災害避難のメインロードではありませんが、配管設備の安全性が向上し、家々をつなぐ細街路が整備されることで、緊急車両の通行や人命救助の迅速化にも役立つものと期待されています。



そしてフラワーロードに

さらに沿道の皆さんは、「この『路地尊通り』を、緑いっぱい、花いっぱい、道にしよう」ということで、墨田区の「グループ緑化」にも参加することになりました。秋には、全戸に大形プランターとともに球根や花の種などを区からいただきます。さらにフラワーロードとして変身することでしょう。

この記事の標題は
一言会副会長 土屋さん（向5東）

お友達とお花を育てる 緑化グループがふえています

最近まちかどで、「グループ緑化」のシールを貼った植木鉢をよく見かけるようになりました。

のぞいてみると、今はまだ芽生えだけの植木鉢もありますが、春を待つて蕾もふくらみはじめています。

あなたも、隣近所（5世帯以上）に声をかけ、玄関先などでお花を育ててみませんか？お花があるまちってステキです。

詳しくは、担当の墨田区環境保全課緑化係（5608-6208）にご相談ください。



みどり大好き！！ わたしのまちの緑化グループ

東向島一丁目なかよし会
代表 大内今日子さん（東向島一丁目）

みどりの仲間
代表 松浦博子さん（東向島三丁目）

地蔵坂通りなかよし会
代表 小島照子さん（東向島一丁目）

花園会
代表 徳永暢男さん（東向島一丁目）

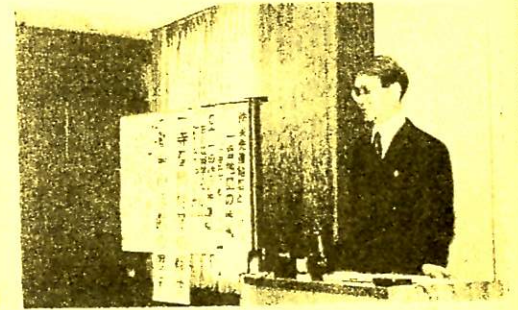
グリーンパーク
代表 五月女英子さん（東向島三丁目）

グリーンタートル
代表 亀ヶ谷和子さん（東向島一丁目）

さくらグループ
代表 足立 時一さん（向 島五丁目）

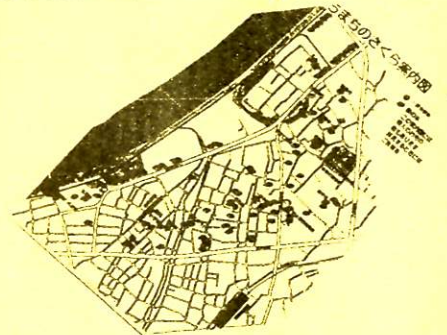
・防災のまち 一言地区を語る

2月14日、区内の歴史を探究している「すみだ史談会」の勉強会で「防災先進地区・一言地域」の運動について一言会の阿部理事が取り組みや成果についてお話をしました。



・好評!! 「さくら案内図」

「わいわい会」が昨年調査し、一言会地域のどこにさくらが咲いているかを紹介した「さくら案内図」は、地元の皆さんをはじめまちを訪れた多くの皆様に喜ばれました。

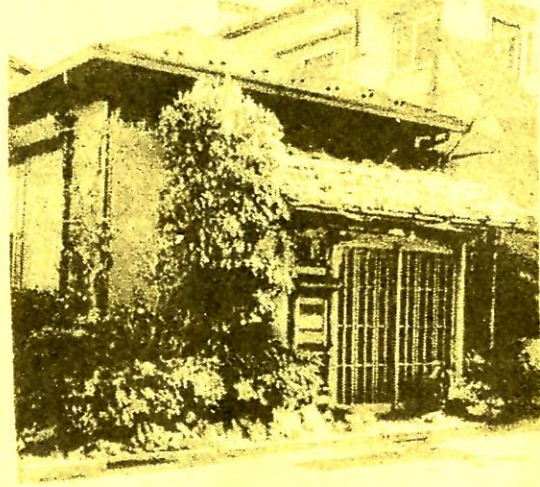


・いらっしやいませ 見学の皆様

平成10年		
5/31	与野市自治連合会	約30名
7/10	大田区職員研修	5名
9/4	国際女性建築家会議	約60名
9/17	特別区社会主事研修会	10名
10/18	上福岡市まちづくり協議会	約30名
11/25	京都市職員研修	3名
11/28	荒川区尾久地区 防災まちづくり連絡会	約50名
12/15	京都市消防局職員研修	4名
平成11年		
1/8	東京都政策報道室	4名
3/26	東大阪職員研修	1名
4/18	荒川区まちづくりフォーラム(予定)	約15名
(平成10年4月のまちづくり事業部扱い)		

おめでとう♪景観賞♪

このたび、平成10年度すみだ優良景観表彰におきまして、一言会の地域内、向島5-19の清水さんのお住まいが「風景づくり賞」に選出されました。



この賞は墨田区が、地域にふさわしい風景づくりに寄与する緑、門構えなどを表彰するもので、一言会の地域では2件目の受賞となります。

今のお住まいに建てかえる際に「新しい家は、田んぼ道に見えてくるような、堀のかわりにいろんな植木に囲まれたお家になりたい、という“ちょっとした夢”を庭師の方に相談したんです。そうしたら大変喜んで、いくつも絵を描いてくれたんです。」と清水さんは言います。

木のぬくもりが感じられる門から、奥の玄関まで続く植木の小道では、春先には紅白の梅、4月・5月はつつじやしやくなげ、夏にはさるすべり、と様々な花の移り変わりが、道行く人からも楽しめます。見知らぬお年寄りから「見ていいですか」と声をかけられることも多く、中には涙を浮かべて喜ぶ人もいて、「いい事したのかな」と感じるようになったと言います。時には「中でお茶でも」と誘って会話を楽しむこともあるそうです。

清水さんの“ちょっとした夢”が、今、まちへと花開いています。



さて『すみだの花火』は山アジサイの一種ですが、丸く小さな花が集まっているアジサイとは違い、花の日持ちがよい品種です。形はガクアジサイという種類に似ますが、真ん中の小さな花から出る花粉が普通のガクアジサイに比べて落ちにくく、汚れが少ないという利点があります。弱点は、花芽が育つ秋口から

戦前から下町にあった種類だそうですが、隅田川花火が中断したこともあったのか、関東ではほとんど忘れられていたようです。しかし、花火の再開とともに、ここ数年人気も急上昇してきました。

「ちょっと待った! 隅田川の花火大会は、毎年、七月のはず??」
「ご安心ください。この『すみだの花火』は、アジサイの種類の名前で、

梅雨に咲く!



「すみだの花火」

私たちがのまち角でも、本物の花火とともにアジサイの『すみだの花火』にたくさん出会えるといいですね。

冬にかけて寒さや霜に弱く育てにくいといわれていましたが、東京の気候では大丈夫というところで、十年ほど前から栽培方法を研究してきた茨城県「いちむら花き園」さん談。



なまずの一言
一言地域に待望の『礫石』
昨年、十一月二十二日。一言地域に「礫石」が現れました。さっそく、皆様にご紹介いたしましょう。インタビュアーはナマスが担当いたしました。

「わたくし、動かない物の権化、かの中国泰山によく似た大きな岩を母として、金波銀波の大河の荒波を父として、至りついたは向島。とある料亭の庭先に、蹲(つくばい)として永くお勤め、このたび、五西町会の花沢様から『お前も、このまちのため一肌脱ぎなさい』というおさしをいただきわゆる一言会館前の小山のいただきに、地震からまちを守る要石(かなめいし)として草鞋(わらじ)を脱ぐこととなりました。

要石とは、地震を起こす大ナマスを押さえつけるお役目とか。わたくし、蹲の時代から水が大好き。きつと水の縁でナマス殿とも仲良くしたいものと念じております。

地域の皆様にも、お地蔵様に水を掛けるように、テッペン(穴)にはせひ路地尊の水をお運びいただき、可愛いがつていただきましたく存じます。ナマス殿ともども、幾久しくよろしくお願ひ申しあげます。〓

